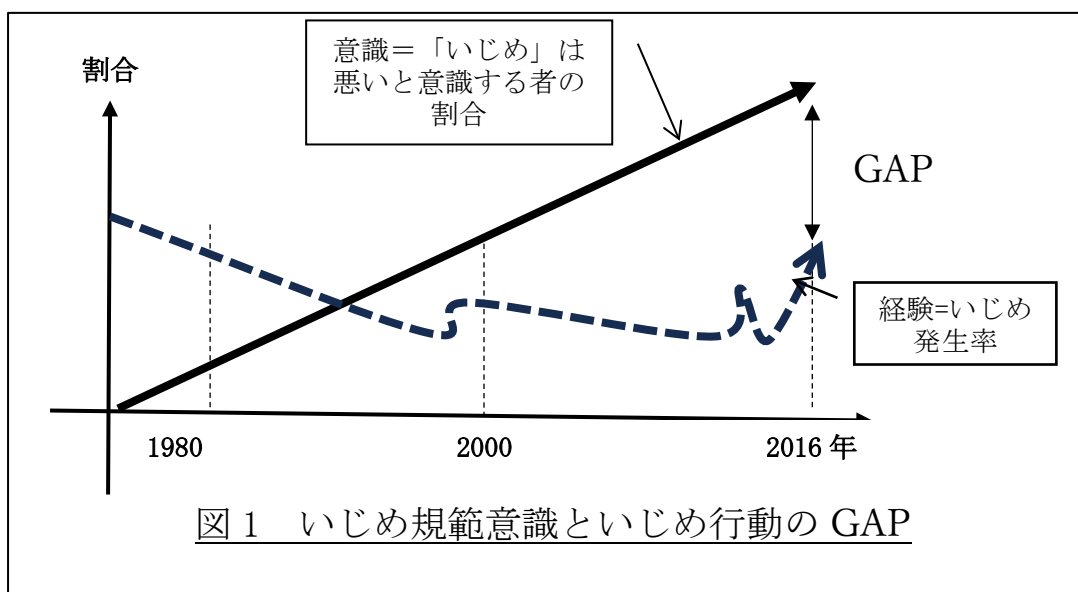


青年期における「危機」を検討する
～規範意識と行動のギャップをいかに埋めるか～

日本女子大学学術研究員

清永奈穂

1. 思春期から青年期にかけては様々な問題行動の噴出・拡大期。
2. この背後に社会規範意識の希薄さ・崩壊が指摘される。
3. しかし実際には彼・彼女らの規範意識は云われるほど希薄・低いのか。
4. 規範意識に関する同一調査票(調査項目)による年次を置いた同一地点同一年齢の意識調査(3回実施)によると、「社会的規範意識」は一貫して高い傾向にある(図1)
5. 問題は「意識は高い」が「その行動を『やってしまう』ことをコントロールする力」は低い。そのことを例えば「いじめ」を例にとって示すと図1の様に示せる。即ち、「意識」と「行動」のGAP、「ズレ」が問題。悪いと頭でわかって行動が裏切る。
6. ギャップは、「いじめ」だけではなく非行(犯罪)、性問題、薬物乱用、不良行為、さらには生活全般わたって若者の問題=危機を噴出させ広げる。次世代の社会の大きな問題(図2)。
7. この診断は、子どもにいくら規範意識の希薄化を強調してもいじめを止める規範行動の向上に効果はないこと、意識と行動のスキマ、乖離、ずれをいかに埋めるかが強調されなくてはならないことを示している。
8. このGAPを埋める社会的装置(制度・システム)をどう創るか。既存の対処的対応はできても、根源的対応法は、既存の教育システムでは無理ではないか。(**「寛容な新・教育社会」**へと改革していくことの必要性)
9. これまで述べてきたように「危機体験を通した子ども教育」の体系化を主張する。
10. 制度の精緻な検討は、場合によって第三次教育臨調を要する。



* 「交通安全教育」No597、31頁、2016年、清永奈穂、(財)日本交通安全教育協会より

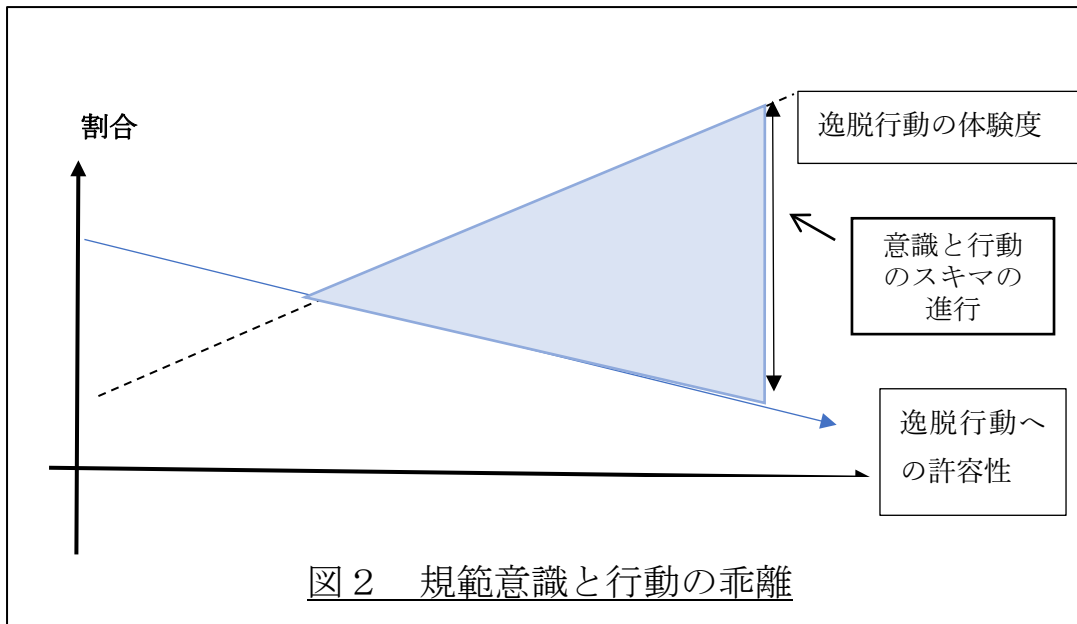


図2 規範意識と行動の乖離

●いじめ防止策の原理原則

いじめをなくすというのは、その根底にある、獣心と欲動を抑えることである。

原理原則その①<子どもを大人にする>

世界の教育はいま心と体の健康教育、あるいはシティズンシップ教育として子どもを市民に育てようとする努力を始めている。その中で、いじめ教育も確実に進化を遂げつつある。特にシティズンシップ教育は、子どもの発達段階に沿いながら、子どもを次世代の大人に育てることを目的として行われる。そのことを子どもの体験で、教える。いじめ教育も体験を通し体得していく。それによって意識と行動の乖離を防ぐ教育が進められる。

原理原則その②<ちょっと待つ自制心を育てる>

子どもを大人にすることに加え、「ちょっと待て」という自制心の心が確かにいじめを抑える有効な働きをする。自制心の体得は、順法つまり世の中がまっとうと受け入れる存在を「信頼する」「大切にすする」「愛する」「すてきれない」「失ってはならない」心を育てることである。それは家庭だけでなく、先生、友達や親類、近隣の人たちとの関係であってよい。その場合大事なことは、子どもにこうした心を求めてはならない。求める前に、与えることが大切である。子ども達の心の中に「自分にとって大切な存在」「失ってはならないもの」という心が生まれ、そして「つながり」ができるのである。こうしたメカニズムは矯正教育の原理原則である。学校も家庭も矯正教育から学ばねばならない。

原理原則③<自制心の強化>

●「社会的な力」の教育的な意味

子どもが危機を回避し乗り越えることが可能となるのは、「体の力」だけではなく、「社会的な力」がより大きいことはいうまでもない。いわゆる「**大人の知恵**」。

「社会的な力」とは、前にも述べたように、①危機を伝えるコミュニケーション力、②危機に関する基礎的知識力、③危機を乗り越える大人力の3つの力から構成される。この3つの内で「危機」の面から見て、特に大切なのは「大人力」。

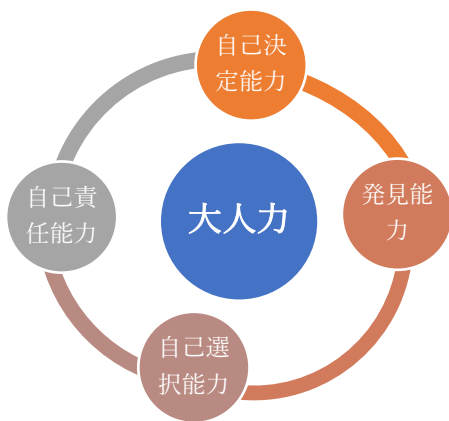
「大人力」とは、A.物事に直面した際に発揮される「危機（問題）を解決するにはどういった方法があるかを考え並べることの出来る「**発見力**」、B.その方法・選択肢の中から、危機＝問題解決に最も適した回答を選び取ることの出来る「**選択力**」、C.その選び取った選択肢を実行する「**決断力**」、D.自己決定、実行から生じる事柄に対処する「**責任力（自己責任）**」を指す。

大人力が求められるのは、犯罪だけではなく、地震、火災、食品等あらゆる危機の根底に据えなければならぬのは、この4つの力である。そしてこの力の中でも、子どもの危機回避と乗り越える時に際して特に重要視されているのが「決断力」であり、正しいことを行う「一寸した勇気」である。

そういう意味で、「安全教育」の最終目標は、危機を通して子どもを大人にする＝大人力の形成、危機を乗り越える「一寸した知恵と勇気」を身につけることにある。

● **安全教育の最終目標＝子どもを大人にすること**

◆ 「社会的な力」の形成を通し最終的に目標とするところは子どもを「大人に育てていく」こと。



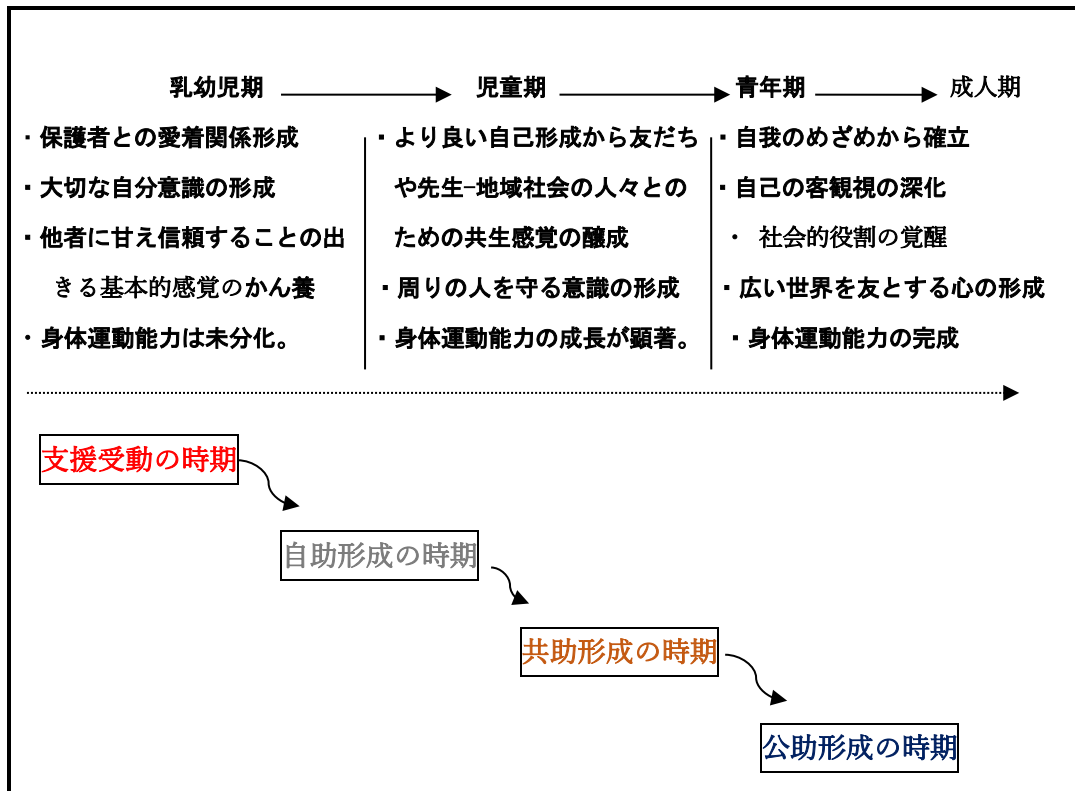
発見能力＝こういう身近な社会的問題を解決するには、こういう選択肢があるのだということを知ることのできる力（大人の知恵）

自己選択能力＝色々な方法から一番良いと思うものを選択する力

自己決定能力＝自分で自分のことを決める力

自己責任能力＝決めたことに自分で責任を取る力

◆ **子どもの発達段階に即した「大人力」＝安全教育カリキュラムの組み立ての基本方針**



出典：『犯罪からの子どもの安全—指導者編—』ステップ総合研究所, 2010、『いじめの深層を科学する』ミネルヴァ書房, 清永賢二, 2013